

- 記入要領
- ・当該事業によるアウトカム指標の変化を把握
 - ・道路種別により、評価項目は適宜変更
 - ・効果が認められる評価項目は□を■に変更
 - ・●印の評価項目については定量的評価の結果を記載

様式1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	一般国道58号 恩納南バイパス
事業主体	沖縄総合事務局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

		指標	指標チェックの根拠
前提条件	事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 便益が費用を上回っている	(一) 評価 恩納バイパス・恩納南バイパス 事業全体：費用便益比(B/C) = 2.0 (経済的純現在価値(B-C) = 1,212億円、経済的内部収益率(EIRR) = 7.0%) 残事業：費用便益比(B/C) = 3.1 (経済的純現在価値(B-C) = 317億円、経済的内部収益率(EIRR) = 16.1%) (二) 評価 恩納南バイパス 事業全体：費用便益比(B/C) = 2.3 (経済的純現在価値(B-C) = 804億円、経済的内部収益率(EIRR) = 7.8%) 残事業：費用便益比(B/C) = 6.6 (経済的純現在価値(B-C) = 291億円、経済的内部収益率(EIRR) = 34.4%)

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標		指標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは□を■に変更)	指標チェックの根拠
1. 活力	円滑なモビリティの確保	<input checked="" type="checkbox"/> 現道等の年間渋滞損失時間及び削減率	区間b (当該区間/並行区間) について 国道58号恩納村瀬良垣～仲泊間⇒現況 (整備なし) : 30.1万人・時間/年 [2.5万人・時間/km年] ⇒将来 (H42整備なし) : 269.9万人・時間/年 [21.4万人・時間/km年] ⇒将来 (H42整備あり) : 13.9万人・時間/年 [1.1万人・時間/km年] (約94.9%削減)
		<input type="checkbox"/> 現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される	
		<input type="checkbox"/> 現道又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上踏切道の除却もしくは交通改善が期待される	
		<input checked="" type="checkbox"/> 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する	・国道58号を利用する既存バスルートの定時性の確保が期待される ⇒名護西空港線・名護西線(64便/日)、リムジンバス(13便/日)、定期観光バス(2便/日) 計79便/日
		<input type="checkbox"/> 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる	
		<input checked="" type="checkbox"/> 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	・恩納村(安富祖地区)から那覇空港(第二種空港)までの所要時間短縮が期待される 【平日 現況:約97分→将来:約90分(約7分短縮)】【休日 現況:約94分→将来:約88分(約6分短縮)】
1. 活力	物流効率化の支援	<input checked="" type="checkbox"/> 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる	・恩納村(安富祖地区)から国際コンテナ航路を持つ重要港湾・那覇港までの所要時間短縮が期待される 【平日 現況:約90分→将来:約83分(約7分短縮)】【休日 現況:約86分→将来:約80分(約6分短縮)】
		<input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上	・北部地域(JAおきなわ北部地区営農センター)で生産・出荷される「花卉」(農林水産品)の輸送(那覇空港まで)の支援 【平日 現況:約119分→将来:約113分(約6分短縮)】【休日 現況:約117分→将来:約111分(約6分短縮)】
		<input type="checkbox"/> 現道等における、総重量25tの車両もしくはISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する	
1. 活力	都市の再生	<input type="checkbox"/> 都市再生プロジェクトを支援する事業である	
		<input type="checkbox"/> 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する	
		<input type="checkbox"/> 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり	
		<input type="checkbox"/> 中心市街地内で行う事業である	
		<input type="checkbox"/> 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km2以下である市街地内での事業である	
		<input type="checkbox"/> DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する	
		<input type="checkbox"/> 対象区間が現在連絡道路がない住宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上)への連絡道路となる	

記入要領

- ・当該事業によるアウトカム指標の変化を把握
- ・道路種別により、評価項目は適宜変更
- ・効果が認められる評価項目は□を■に変更
- ・●印の評価項目については定量的評価の結果を記載

様式1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	一般国道58号 恩納南バイパス
事業主体	沖縄総合事務局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

		指標	指標チェックの根拠
1. 活力	国土・地域ネットワークの構築	<input type="checkbox"/> 高速自動車国道と並行する自専道(A'路線)としての位置づけ有り	
		<input type="checkbox"/> 地域高規格道路の位置づけあり	
		<input type="checkbox"/> 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	
		<input type="checkbox"/> 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	
		<input type="checkbox"/> 現道等における交通不能区間を解消する	
		<input type="checkbox"/> 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する	
		<input checked="" type="checkbox"/> 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる	・恩納村(仲泊交差点)から北部地域の中心都市である名護市(名護市役所)までの所要時間短縮が期待される【平日 現況:約43分→将来:約36分(約7分短縮)】【休日 現況:約44分→将来:約38分(約6分短縮)】
	個性ある地域の形成	<input type="checkbox"/> 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する	
		<input checked="" type="checkbox"/> 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する	・沖縄科学技術大学院大学の建設 [拠点開発プロジェクト] ・沖縄科学技術大学院大学～名護市(名護市役所)までの所要時間短縮が期待される【平日 現況:約37分→将来:約32分(約5分短縮)】【休日 現況:約38分→将来:約34分(約4分短縮)】
		<input checked="" type="checkbox"/> 主要な観光地へのアクセス向上が期待される	・夏季観光シーズンにおける恩納村内の主要観光地(琉球村)～国営沖縄記念公園までの所要時間短縮が期待される(H27年度恩納村宿泊客数263万人(主要宿泊施設合計))【平日 現況:約77分→将来:約71分(約6分短縮)】【休日 現況:約79分→将来:約73分(約6分短縮)】
<input checked="" type="checkbox"/> 特別立法に基づく事業である		・沖縄振興特別措置法	
	<input type="checkbox"/> 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である		
	<input type="checkbox"/> 歴史的景観を活かした道路整備や中心商店街のシンボリックな道路整備等、特色あるまちづくりに資する事業である		
2. 暮らし	歩行者・自転車のための生活空間の形成	<input type="checkbox"/> 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上全ての該当する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる	
		<input type="checkbox"/> 交通バリアフリー法における道路特定事業に位置付けがある、または、交通バリアフリー法に基づく重点整備地区における特定経路を形成する区間が新たにバリアフリー化される	
	無電柱化による美しい町並みの形成	<input type="checkbox"/> 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけ有り	
		<input type="checkbox"/> 市街地又は歴史景観地区(歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区)の幹線道路において新たに無電柱化を達成する	
	安全で安心できるくらしの確保	<input type="checkbox"/> 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる	

記入要領

- ・当該事業によるアウトカム指標の変化を把握
- ・道路種別により、評価項目は適宜変更
- ・効果が認められる評価項目は□を■に変更
- ・●印の評価項目については定量的評価の結果を記載

様式1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	一般国道58号 恩納南バイパス
事業主体	沖縄総合事務局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

		指標	指標チェックの根拠
3. 安全	安全な生活環境の確保	<input type="checkbox"/> 現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存在する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる	
		<input type="checkbox"/> 当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上(当該区間が通学路である場合は500台/12h以上)かつ歩行者交通量100人/日以上(当該区間が通学路である場合は学童、園児が40人/日以上)の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される	
	災害への備え	<input type="checkbox"/> 近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する	
		<input checked="" type="checkbox"/> 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業5ヶ年計画に位置づけのある路線(以下「緊急輸送道路」という)として位置づけあり	・対象区間は第一次緊急輸送道路に位置づけられている
		<input checked="" type="checkbox"/> 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する	・第一次緊急輸送道路である「国道58号 瀬良垣～南恩納間」の代替路線としての機能が期待される
		<input type="checkbox"/> 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する(A路線としての位置づけがある場合)	
		<input type="checkbox"/> 現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される	
		<input type="checkbox"/> 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する	
		<input type="checkbox"/> 避難路へ1km以内で到達できる地区が新たに増加する	
		<input type="checkbox"/> 幅員6m以上の道路がないため消火活動が出来ない地区が解消する	
<input type="checkbox"/> 密集市街地における事業で火災時の延焼遮断帯の役割を果たす			
4. 環境	地球環境の保全	● 対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量	・CO2排出削減量(H42完成供用時): 14,658t-CO2/年(排出削減率:約1%) (整備前: 1,278千t-CO2/年⇒整備後: 1,263千t-CO2/年)
	生活環境の改善・保全	● 現道等における自動車からのNO2排出削減率	・国道58号恩納村瀬良垣～仲泊間のNO2排出削減量(H42完成供用時): 32.5t-NO2/年(排出削減率:約79%) (整備前: 41.2t-NO2/年⇒整備後: 8.7t-NO2/年)
		● 現道等における自動車からのSPM排出削減率	・国道58号恩納村瀬良垣～仲泊間のSPM排出削減量(H42完成供用時): 1.9t-SPM/年(排出削減率:約80%) (整備前: 2.4t-SPM/年⇒整備後: 0.5t-SPM/年)
		<input type="checkbox"/> 現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある	
		<input type="checkbox"/> その他、環境や景観上の効果が期待される	
5. その他	他のプロジェクトとの関係	<input type="checkbox"/> 道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている	
		<input type="checkbox"/> 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり	
		<input type="checkbox"/> 他機関との連携プログラムに位置づけられている	
		<input type="checkbox"/> その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が見込まれる	

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BP・その他の別
一般国道58号	恩納バイパス・恩納南バイパス	L=11.6km	二次改築	BP

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
21,800	4	沖縄総合事務局

① 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	令和元年度		
単純合計	746億円	143億円	888億円
うち残事業分	131億円	117億円	248億円
基準年における 現在価値(C)	1,114億円	81億円	1,195億円
うち残事業分	111億円	41億円	151億円

② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	令和元年度			
供用年	平成22年度(部分暫定供用)、平成24年度(部分暫定供用)、 平成30年度(全線暫定供用)、 令和6年度(完成供用:恩納南BP)、令和9年度(完成供用:恩納BP)			
単年便益 (初年便益)	4.0億円	0.24億円	0.05億円	4.3億円
基準年における 現在価値(B)	2,304億円	76億円	27億円	2,407億円
うち残事業分	449億円	14億円	5.5億円	469億円

③ 結果

費用便益比(事業全体)	2.0
経済的純現在価値(事業全体)	1,212億円
経済的内部収益率(事業全体)	7.0%
費用便益比(残事業)	3.1
経済的純現在価値(残事業)	317億円
経済的内部収益率(残事業)	16.1%

注)費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感度分析(残事業を対象)

【事業全体】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比(B/C)
交通量	21,800台/日	±10%	1.8~2.2
事業費	746億円	±10%	2.0~2.0
事業期間	38年	±20%	2.0~2.0

【残事業】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比(B/C)
交通量	21,800台/日	±10%	2.8~3.4
事業費	131億円	±10%	2.9~3.3
事業期間	7年	±20%	2.9~3.2

交通状況の変化

様式-3①

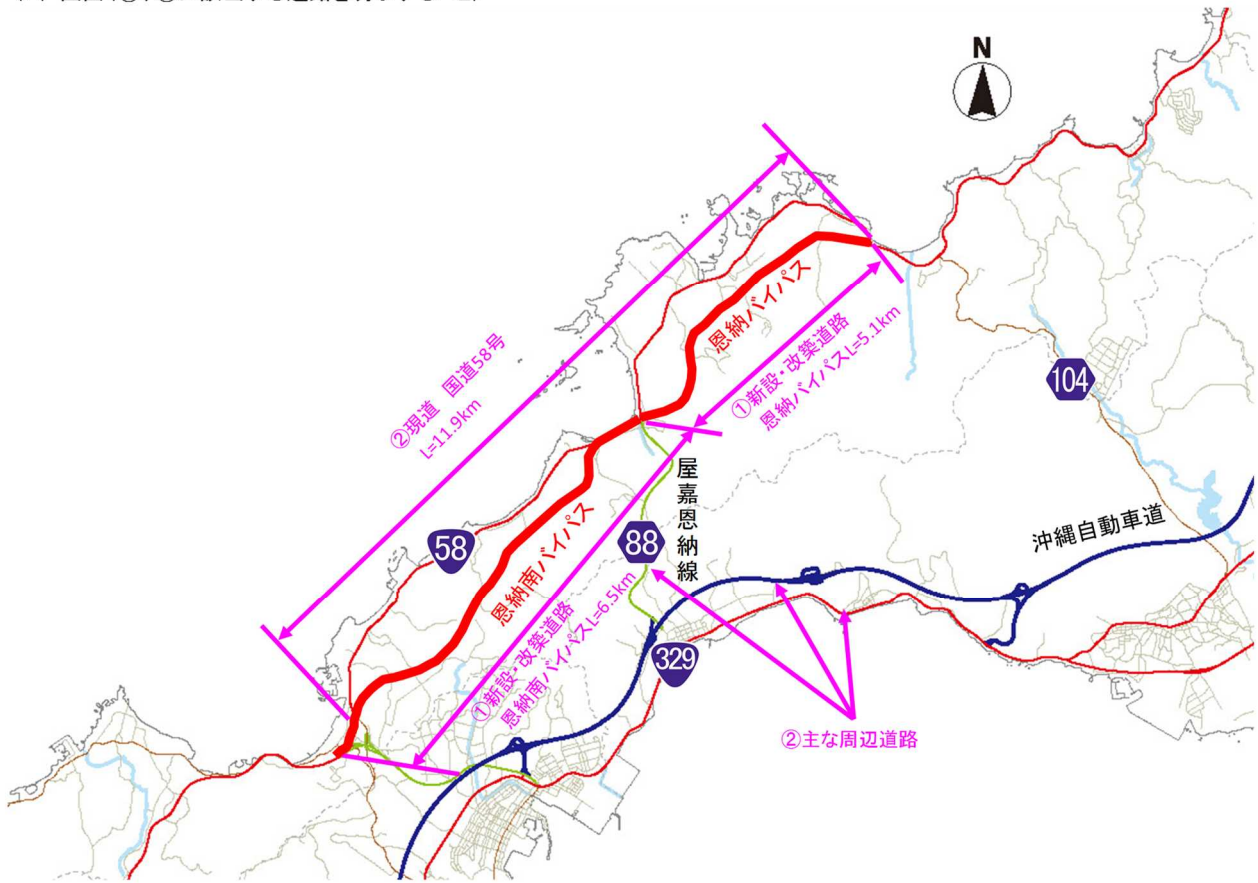
事業名: 恩納バイパス・恩納南バイパス一体(事業全体)

(推計時点 R12年)

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 [恩納バイパス・恩納南バイパス一体] :11.6km	交通量 ^{※1}	[台/日]	0	21,800	
	走行時間 ^{※2}	[分]	0.00	13	
	走行時間費用 ^{※3}	[億円/年]	0.00	51	
②主な周辺道路 ^{※4}	現道(国道58号) :11.9km	交通量	[台/日]	12,200	3,600
		走行時間	[分]	43	19
		走行時間費用	[億円/年]	94	12
	沖縄自動車道 :14.0km (片側7.0km×2)	交通量	[台/日]	6,500	4,300
		走行時間	[分]	11	10
		走行時間費用	[億円/年]	12	8.0
	国道329号 :0.4km	交通量	[台/日]	33,200	19,900
		走行時間	[分]	1.5	1.1
		走行時間費用	[億円/年]	9.2	4.0
	屋嘉恩納線 :1.0km	交通量	[台/日]	11,800	6,000
		走行時間	[分]	3.1	2.4
		走行時間費用	[億円/年]	6.5	2.5
③その他道路合計 :1389.0km	走行時間費用	[億円/年]	5,145	5,085	

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計: 1428km	走行時間短縮便益	[億円/年]	5,266	5,162	104

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること)



交通状況の変化

様式-3①

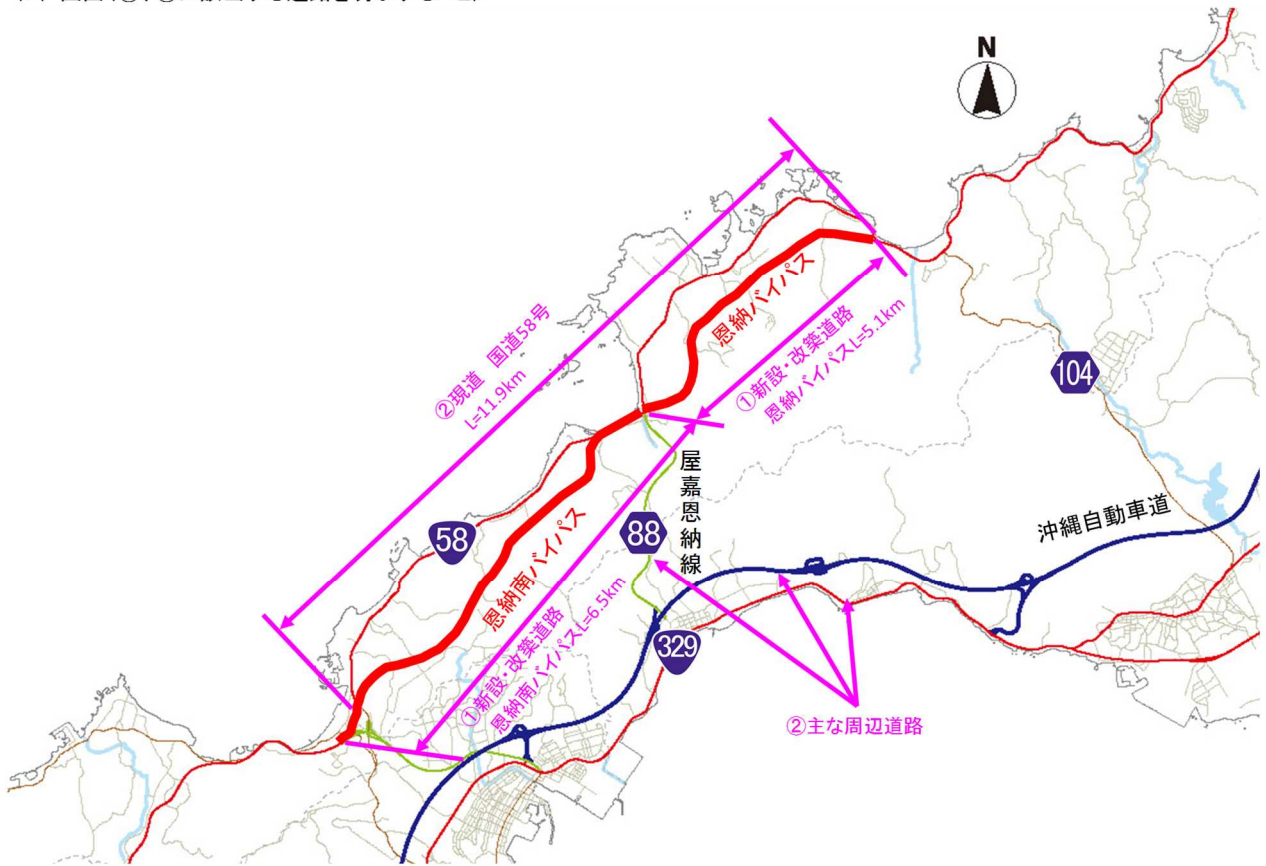
事業名: 恩納バイパス・恩納南バイパス一体(残事業)

(推計時点 R12年)

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 [恩納バイパス・恩納南バイパス一体] :11.6km	交通量 ^{※1}	[台/日]	12,300	21,800	
	走行時間 ^{※2}	[分]	22	13	
	走行時間費用 ^{※3}	[億円/年]	48	51	
②主な周辺道路 ^{※4}	現道(国道58号) :11.9km	交通量	[台/日]	7,700	3,600
		走行時間	[分]	25	19
		走行時間費用	[億円/年]	36	12
	沖縄自動車道 :14.0km (片側7.0km×2)	交通量	[台/日]	5,100	4,300
		走行時間	[分]	10	10
		走行時間費用	[億円/年]	9.5	8.0
	国道329号 :0.4km	交通量	[台/日]	25,300	19,900
		走行時間	[分]	1.3	1.1
		走行時間費用	[億円/年]	5.8	4.0
	屋嘉恩納線 :1.0km	交通量	[台/日]	9,800	6,000
		走行時間	[分]	2.7	2.4
		走行時間費用	[億円/年]	4.7	2.5
③その他道路合計 :1389.0km	走行時間費用	[億円/年]	5,087	5,085	

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計: 1428km	走行時間短縮便益	[億円/年]	5,191	5,162	28

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること



費用便益分析の条件

事業名：恩納バイパス・恩納南バイパス一体

(2)

		項目	チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成30年2月 国土交通省 道路局 都市局)		<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他		<input type="checkbox"/>	
分析の基本的事項	分析対象期間		50年間	
	社会的割引率		4%	
	基準年次		令和元年度	
交通流の推計時点	1時点のみ推計		<input type="checkbox"/> ()	
	複数時点での推計		<input checked="" type="checkbox"/> (H22,R12)	
推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計		<input checked="" type="checkbox"/>	
	整備の有無のいずれかのみ推計		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	いずれかのみ推計の場合	いずれかのみ推計とした理由を記載		
推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)		<input checked="" type="checkbox"/> (平成22センサス)	
	パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)		<input type="checkbox"/>	
	その他()		<input type="checkbox"/>	
開発交通量の考慮	無		<input checked="" type="checkbox"/>	
	有		<input type="checkbox"/>	
	有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数) 考慮した理由を記載	()台トリップ/日	
交通流推計	Q-V式を用いた配分		<input type="checkbox"/>	
	転換率式を用いた配分		<input type="checkbox"/>	
	Q-V式と転換率式の併用による配分		<input checked="" type="checkbox"/>	
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)		<input type="checkbox"/>	
	簡易手法		<input type="checkbox"/>	
	簡易手法の採択理由	小規模事業である		<input type="checkbox"/>
		山間部海岸部で併行道路が少ない		<input type="checkbox"/>
	その他()			
簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)				
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定		<input checked="" type="checkbox"/>	
	採用理由を記載	交通量が、交通容量(Qmax~Qmin)以上の路線、交通容量程度の路線等が混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。		
	最終配分の速度		<input type="checkbox"/>	
	採用理由を記載			
その他()		<input type="checkbox"/>		

(3)

		項目	チェック欄		
便 益 の 算 定	休日交通の 影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
		考慮する	<input type="checkbox"/>		
		考慮する 場合のみ	面的に考慮	<input type="checkbox"/>	
			対象路線のみ考慮	<input type="checkbox"/>	
			採用した休日係数	() %	
	休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載				
	災害等による 通行止めの 影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
		考慮する	<input type="checkbox"/>		
		考慮する 場合のみ	採用した通行止め日数	() 日	
			採用した通行止め日数の考え方を記載		
			とり止め交通を考慮する	<input type="checkbox"/>	
	とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載				
	冬期交通の 影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
		考慮する	<input type="checkbox"/>		
		考慮する 場合のみ	採用した冬期日数	() 日	
			採用した冬期日数の考え方を記載		
			冬期の走行速度と交通容量の関係	設定の考え方を記載	
	交通流推計の時点 以外の便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	<input checked="" type="checkbox"/>		
		その他 ()	<input type="checkbox"/>		
	車種別時間 価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>		
独自に設定した値を使用		<input type="checkbox"/>			
車種別走行 経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>			
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>			
交通事故減少 便益算定	中央分離帯の有無を考慮	<input checked="" type="checkbox"/>			
	中央分離帯の有無を考慮しない	<input type="checkbox"/>			
走行時間短縮・走行 経費減少・交通事故 減少以外の便益	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>			
	考慮する	<input type="checkbox"/>			
その他					

費用の現在価値算定表

箇所名: 恩納バイパス・恩納南バイパス一体(事業全体)				維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)			
				単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)	
				0.30	11.6	3.43	
年次	年度	割引率	GDP デフレータ	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在単価	単純単価	現在単価
-21年目	H 1	3.2434	110.8	0.49	1.5		
-20年目	H 2	3.1187	113.3	0.19	0.55		
-19年目	H 3	2.9987	116.0	2.6	7.0		
-18年目	H 4	2.8834	117.6	1.3	3.2		
-17年目	H 5	2.7725	117.9	7.7	19		
-16年目	H 6	2.6658	117.8	10	24		
-15年目	H 7	2.5633	117.1	14	31		
-14年目	H 8	2.4647	116.6	22	48		
-13年目	H 9	2.3699	117.5	20	42		
-12年目	H 10	2.2788	116.9	50	101		
-11年目	H 11	2.1911	115.2	31	61		
-10年目	H 12	2.1068	113.8	23	44		
-9年目	H 13	2.0258	112.4	38	70		
-8年目	H 14	1.9479	110.5	32	57		
-7年目	H 15	1.8730	109.0	23	41		
-6年目	H 16	1.8009	107.9	21	36		
-5年目	H 17	1.7317	106.7	18	30		
-4年目	H 18	1.6651	105.9	33	54		
-3年目	H 19	1.6010	105.0	24	37		
-2年目	H 20	1.5395	104.4	31	48		
-1年目	H 21	1.4802	103.0	21	32		
暫定供用開始年次	H 22	1.4233	101.3	22	32	0.94	1.4
1年目	H 23	1.3686	99.8	16	22	0.94	1.3
暫定供用年次(2年目)	H 24	1.3159	99.0	19	26	2.0	2.7
3年目	H 25	1.2653	99.0	15	19	2.0	2.6
4年目	H 26	1.2167	101.5	18	22	2.0	2.5
5年目	H 27	1.1699	103.0	28	33	2.0	2.3
6年目	H 28	1.1249	102.8	23	26	2.0	2.3
7年目	H 29	1.0816	103.0	21	22	2.0	2.2
暫定供用年次(8年目)	H 30	1.0400	103.0	18	18	2.4	2.5
9年目	R 1	1.0000	103.0	11	11	2.4	2.4
10年目	R 2	0.9615	103.0	9.1	8.7	2.4	2.3
11年目	R 3	0.9246	103.0	5.5	5.0	2.4	2.3
12年目	R 4	0.8890	103.0	24	21	2.4	2.2
13年目	R 5	0.8548	103.0	39	34	2.4	2.1
完成供用年次(14年目)	R 6	0.8219	103.0	21	17	2.8	2.3
15年目	R 7	0.7903	103.0	17	14	2.8	2.2
16年目	R 8	0.7599	103.0	14	11	2.8	2.1
完成供用年次(17年目)	R 9	0.7307	103.0			3.1	2.3
18年目	R 10	0.7026	103.0			3.1	2.2
19年目	R 11	0.6756	103.0			3.1	2.1
20年目	R 12	0.6496	103.0			3.1	2.0
21年目	R 13	0.6246	103.0			3.1	2.0
22年目	R 14	0.6006	103.0			3.1	1.9
23年目	R 15	0.5775	103.0			3.1	1.8
24年目	R 16	0.5553	103.0			3.1	1.7
25年目	R 17	0.5339	103.0			3.1	1.7
26年目	R 18	0.5134	103.0			3.1	1.6
27年目	R 19	0.4936	103.0			3.1	1.5
28年目	R 20	0.4746	103.0			3.1	1.5
29年目	R 21	0.4564	103.0			3.1	1.4
30年目	R 22	0.4388	103.0			3.1	1.4
31年目	R 23	0.4220	103.0			3.1	1.3
32年目	R 24	0.4057	103.0			3.1	1.3
33年目	R 25	0.3901	103.0			3.1	1.2
34年目	R 26	0.3751	103.0			3.1	1.2
35年目	R 27	0.3607	103.0			3.1	1.1
36年目	R 28	0.3468	103.0			3.1	1.1
37年目	R 29	0.3335	103.0			3.1	1.04
38年目	R 30	0.3207	103.0			3.1	1.00
39年目	R 31	0.3083	103.0			3.1	0.96
40年目	R 32	0.2965	103.0			3.1	0.92
41年目	R 33	0.2851	103.0			3.1	0.89
42年目	R 34	0.2741	103.0			3.1	0.85
43年目	R 35	0.2636	103.0			3.1	0.82
44年目	R 36	0.2534	103.0			3.1	0.79
45年目	R 37	0.2437	103.0			3.1	0.76
46年目	R 38	0.2343	103.0			3.1	0.73
47年目	R 39	0.2253	103.0			3.1	0.70
48年目	R 40	0.2166	103.0			3.1	0.68
49年目	R 41	0.2083	103.0			3.1	0.65
50年目	R 42	0.2003	103.0			1.4	0.27
51年目	R 43	0.1926	103.0	-92	-18	1.4	0.26
合計				654	1114	143	81
単純事業費計				746		143	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

(投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表

				維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)			
箇所名: 恩納バイパス・恩納南バイパス一体(残事業)				単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)	
				0.22	11.6	2.58	
年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-4年目	R 2	0.9615	103.0	9.1	8.7		
-3年目	R 3	0.9246	103.0	5.5	5.0		
-2年目	R 4	0.8890	103.0	24	21		
-1年目	R 5	0.8548	103.0	39	34		
完成供用開始年次	R 6	0.8219	103.0	21	17	1.3	1.1
1年目	R 7	0.7903	103.0	17	14	1.3	1.03
2年目	R 8	0.7599	103.0	14	11	1.3	0.99
完成供用年次(3年目)	R 9	0.7307	103.0			2.3	1.7
4年目	R 10	0.7026	103.0			2.3	1.7
5年目	R 11	0.6756	103.0			2.3	1.6
6年目	R 12	0.6496	103.0			2.3	1.5
7年目	R 13	0.6246	103.0			2.3	1.5
8年目	R 14	0.6006	103.0			2.3	1.4
9年目	R 15	0.5775	103.0			2.3	1.4
10年目	R 16	0.5553	103.0			2.3	1.3
11年目	R 17	0.5339	103.0			2.3	1.3
12年目	R 18	0.5134	103.0			2.3	1.2
13年目	R 19	0.4936	103.0			2.3	1.2
14年目	R 20	0.4746	103.0			2.3	1.1
15年目	R 21	0.4564	103.0			2.3	1.1
16年目	R 22	0.4388	103.0			2.3	1.03
17年目	R 23	0.4220	103.0			2.3	0.99
18年目	R 24	0.4057	103.0			2.3	0.95
19年目	R 25	0.3901	103.0			2.3	0.91
20年目	R 26	0.3751	103.0			2.3	0.88
21年目	R 27	0.3607	103.0			2.3	0.85
22年目	R 28	0.3468	103.0			2.3	0.81
23年目	R 29	0.3335	103.0			2.3	0.78
24年目	R 30	0.3207	103.0			2.3	0.75
25年目	R 31	0.3083	103.0			2.3	0.72
26年目	R 32	0.2965	103.0			2.3	0.70
27年目	R 33	0.2851	103.0			2.3	0.67
28年目	R 34	0.2741	103.0			2.3	0.64
29年目	R 35	0.2636	103.0			2.3	0.62
30年目	R 36	0.2534	103.0			2.3	0.59
31年目	R 37	0.2437	103.0			2.3	0.57
32年目	R 38	0.2343	103.0			2.3	0.55
33年目	R 39	0.2253	103.0			2.3	0.53
34年目	R 40	0.2166	103.0			2.3	0.51
35年目	R 41	0.2083	103.0			2.3	0.49
36年目	R 42	0.2003	103.0			2.3	0.47
37年目	R 43	0.1926	103.0			2.3	0.45
38年目	R 44	0.1852	103.0			2.3	0.43
39年目	R 45	0.1780	103.0			2.3	0.42
40年目	R 46	0.1712	103.0			2.3	0.40
41年目	R 47	0.1646	103.0			2.3	0.39
42年目	R 48	0.1583	103.0			2.3	0.37
43年目	R 49	0.1522	103.0			2.3	0.36
44年目	R 50	0.1463	103.0			2.3	0.34
45年目	R 51	0.1407	103.0			2.3	0.33
46年目	R 52	0.1353	103.0			2.3	0.32
47年目	R 53	0.1301	103.0			2.3	0.31
48年目	R 54	0.1251	103.0			2.3	0.29
49年目	R 55	0.1203	103.0			2.3	0.28
50年目	R 56	0.1157	103.0			1.0	0.12
51年目	R 57	0.1112	103.0			1.0	0.12
52年目	R 58	0.1069	103.0			1.0	0.11
合計				131	111	117	41
単純事業費計				131		117	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

(投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BP・その他の別
一般国道58号	恩納南バイパス	L=6.5km	二次改築	BP

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
22,900	4	沖縄総合事務局

① 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	令和元年度		
単純合計	373億円	79億円	452億円
うち残事業分	31億円	65億円	96億円
基準年における 現在価値(C)	553億円	46億円	599億円
うち残事業分	28億円	24億円	52億円

② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	令和元年度			
供用年	平成22年度(部分暫定供用)、平成30年度(全線暫定供用)、 令和6年度(完成供用)			
単年便益 (初年便益)	4.0億円	0.24億円	0.05億円	4.3億円
基準年における 現在価値(B)	1,347億円	44億円	13億円	1,403億円
うち残事業分	329億円	10億円	3.8億円	343億円

③ 結果

費用便益比(事業全体)	2.3
経済的純現在価値(事業全体)	804億円
経済的内部収益率(事業全体)	7.8%
費用便益比(残事業)	6.6
経済的純現在価値(残事業)	291億円
経済的内部収益率(残事業)	34.4%

注)費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感度分析(残事業を対象)

【事業全体】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比(B/C)
交通量	22,900台/日	±10%	2.1~2.6
事業費	373億円	±10%	2.3~2.4
事業期間	34年	±20%	2.3~2.4

【残事業】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比(B/C)
交通量	22,900台/日	±10%	5.9~7.3
事業費	31億円	±10%	6.3~7.0
事業期間	4年	±20%	6.6~6.6

交通状況の変化

様式-3①

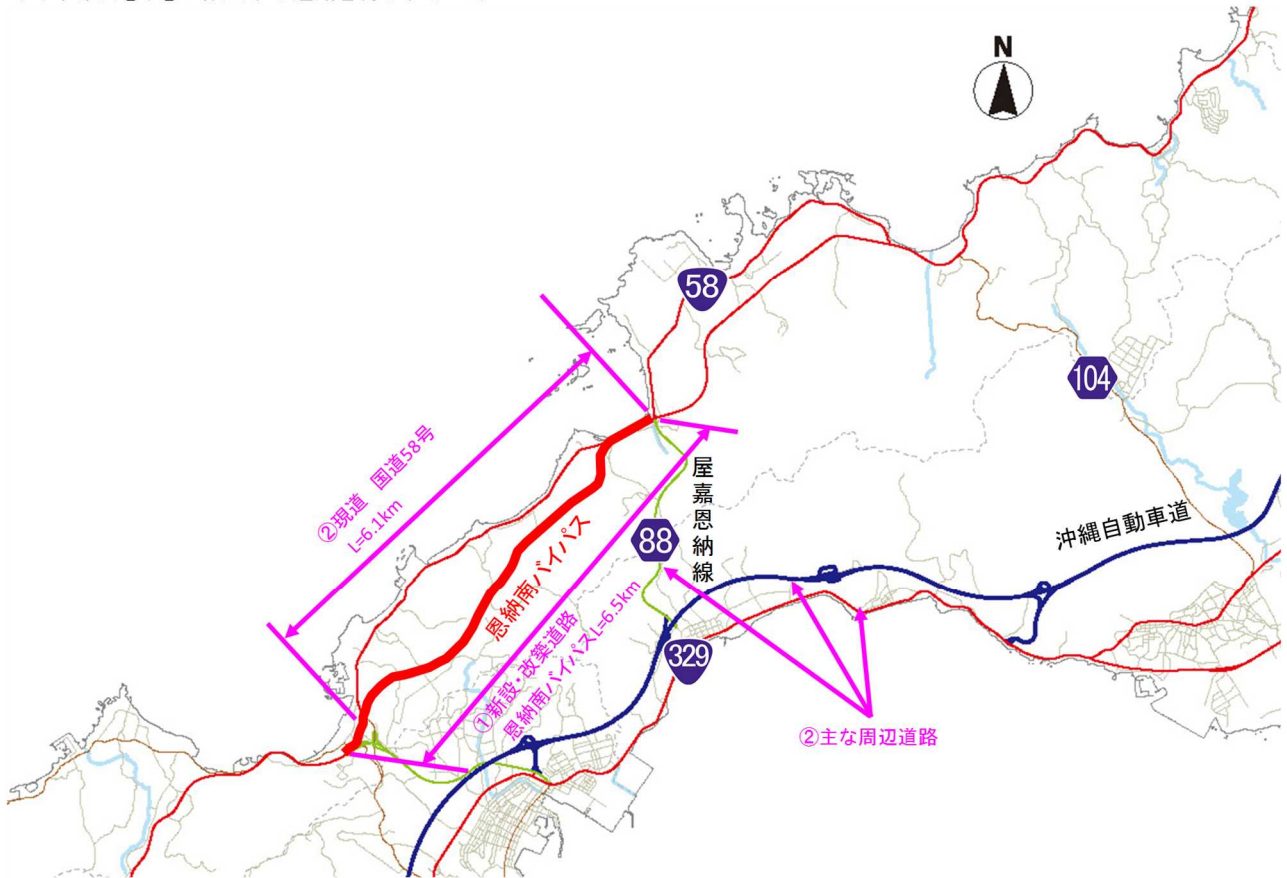
事業名: 恩納南バイパス(事業全体)

(推計時点 R12年)

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 [恩納南バイパス] :6.5km	交通量 ^{※1}	[台/日]	0	22,900	
	走行時間 ^{※2}	[分]	0.00	7.3	
	走行時間費用 ^{※3}	[億円/年]	0.00	30	
②主な周辺 道路 ^{※4}	現道(国道 58号) :6.1km	交通量	[台/日]	10,600	3,600
		走行時間	[分]	24	10.1
		走行時間費用	[億円/年]	45	6.7
	沖縄自動 車道 :14.0km (片側7.0m ×2)	交通量	[台/日]	5,200	4,300
		走行時間	[分]	10	10
		走行時間費用	[億円/年]	9.5	8.0
	国道329号 :0.5km	交通量	[台/日]	35,200	19,900
		走行時間	[分]	1.8	1.3
		走行時間費用	[億円/年]	11.2	4.6
	屋嘉恩納 線 :0.8km	交通量	[台/日]	17,100	7,000
		走行時間	[分]	3.6	2.2
		走行時間費用	[億円/年]	10.8	2.7
③その他道路合計 :1399.9km	走行時間費用	[億円/年]	5,148	5,111	

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計: 1428km	走行時間短縮便益	[億円/年]	5,225	5,162	63

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること



交通状況の変化

様式-3①

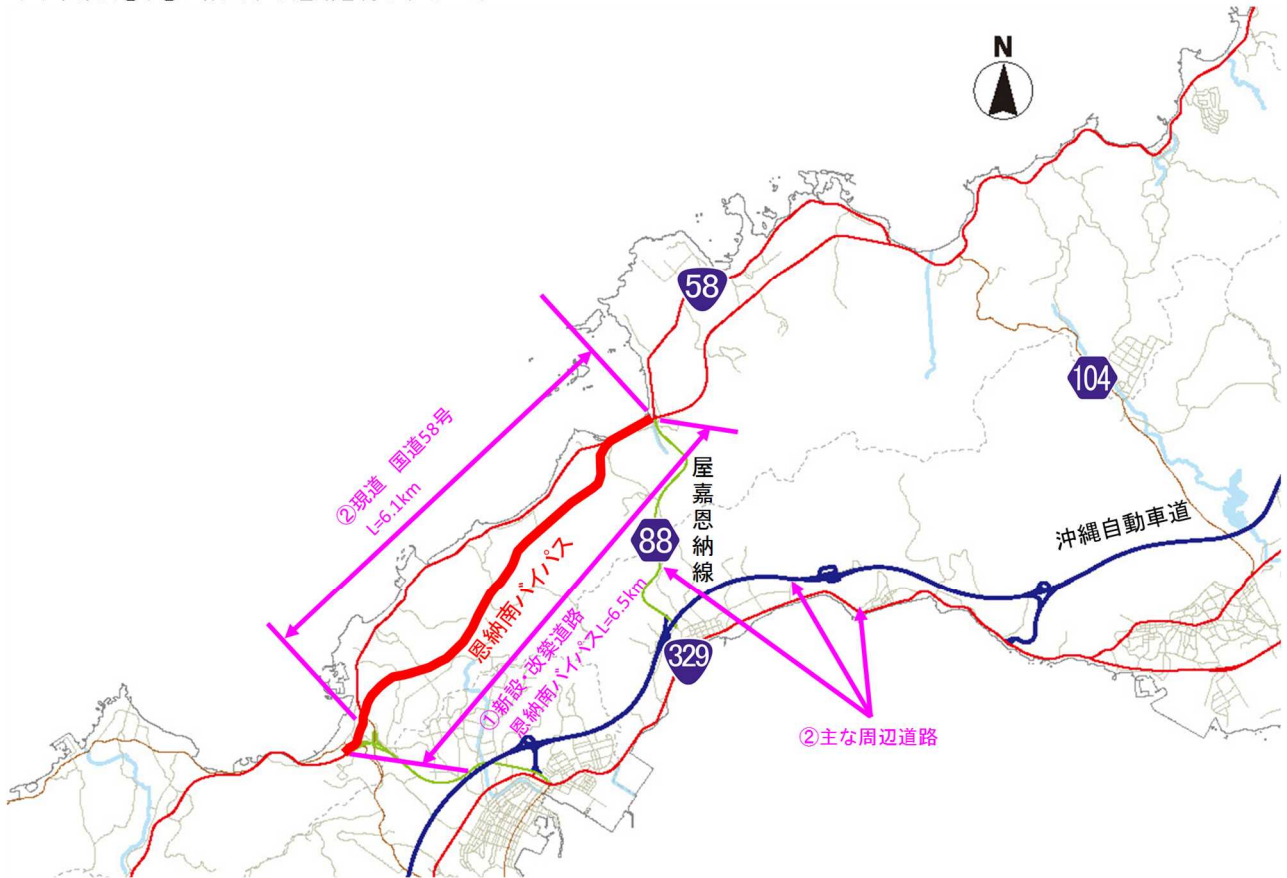
事業名: 恩納南バイパス(残事業)

(推計時点 R12年)

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 [恩納南バイパス] :6.5km	交通量 ^{※1}	[台/日]	12,400	22,900	
	走行時間 ^{※2}	[分]	12	7.3	
	走行時間費用 ^{※3}	[億円/年]	27	30	
②主な周辺 道路 ^{※4}	現道(国道 58号) :6.1km	交通量	[台/日]	7,600	3,600
		走行時間	[分]	15	10.1
		走行時間費用	[億円/年]	20	6.7
	沖縄自動車道 :14.0km (片側7.0m ×2)	交通量	[台/日]	4,700	4,300
		走行時間	[分]	10	10
		走行時間費用	[億円/年]	8.7	8.0
	国道329号 :0.5km	交通量	[台/日]	25,500	19,900
		走行時間	[分]	1.5	1.3
		走行時間費用	[億円/年]	6.7	4.6
	屋嘉恩納 線 :0.8km	交通量	[台/日]	10,600	7,000
		走行時間	[分]	2.6	2.2
		走行時間費用	[億円/年]	5.0	2.7
③その他道路合計 :1399.9km	走行時間費用	[億円/年]	5,114	5,111	

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計: 1428km	走行時間短縮便益	[億円/年]	5,182	5,162	20

(2) 図面(①、②)に該当する道路を明示すること



費用便益分析の条件

事業名：恩納南バイパス

(2)

		項目	チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成30年2月 国土交通省 道路局 都市局)		<input checked="" type="checkbox"/>	
	その他		<input type="checkbox"/>	
分析の基本的事項	分析対象期間		50年間	
	社会的割引率		4%	
	基準年次		令和元年度	
交通流の推計時点	1時点のみ推計		<input type="checkbox"/> ()	
	複数時点での推計		<input checked="" type="checkbox"/> (H22,R12)	
推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計		<input checked="" type="checkbox"/>	
	整備の有無のいずれかのみ推計		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	いずれかのみ推計の場合	いずれかのみ推計とした理由を記載		
推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)		<input checked="" type="checkbox"/> (平成22センサス)	
	パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)		<input type="checkbox"/>	
	その他()		<input type="checkbox"/>	
開発交通量の考慮	無		<input checked="" type="checkbox"/>	
	有		<input type="checkbox"/>	
	有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数) 考慮した理由を記載	()台トリップ/日	
交通流推計	Q-V式を用いた配分		<input type="checkbox"/>	
	転換率式を用いた配分		<input type="checkbox"/>	
	Q-V式と転換率式の併用による配分		<input checked="" type="checkbox"/>	
	均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)		<input type="checkbox"/>	
	簡易手法		<input type="checkbox"/>	
	簡易手法の採択理由	小規模事業である		<input type="checkbox"/>
		山間部海岸部で併行道路が少ない		<input type="checkbox"/>
	その他()			
簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)				
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定		<input checked="" type="checkbox"/>	
	採用理由を記載	交通量が、交通容量(Qmax~Qmin)以上の路線、交通容量程度の路線等が混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。		
	最終配分の速度		<input type="checkbox"/>	
	採用理由を記載			
	その他()		<input type="checkbox"/>	

(3)

		項目	チェック欄		
便 益 の 算 定	休日交通の 影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
		考慮する	<input type="checkbox"/>		
		考慮する 場合のみ	面的に考慮	<input type="checkbox"/>	
			対象路線のみ考慮	<input type="checkbox"/>	
			採用した休日係数	() %	
	休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載				
	災害等による 通行止めの 影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
		考慮する	<input type="checkbox"/>		
		考慮する 場合のみ	採用した通行止め日数	() 日	
			採用した通行止め日数の考え方を記載		
			とり止め交通を考慮する	<input type="checkbox"/>	
	とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載				
	冬期交通の 影響	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>		
		考慮する	<input type="checkbox"/>		
		考慮する 場合のみ	採用した冬期日数	() 日	
			採用した冬期日数の考え方を記載		
			冬期の走行速度と交通容量の関係		
	設定の考え方を記載				
	交通流推計の時点 以外の便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	<input checked="" type="checkbox"/>		
		その他 ()	<input type="checkbox"/>		
車種別時間 価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>			
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>			
車種別走行 経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	<input checked="" type="checkbox"/>			
	独自に設定した値を使用	<input type="checkbox"/>			
交通事故減少 便益算定	中央分離帯の有無を考慮	<input checked="" type="checkbox"/>			
	中央分離帯の有無を考慮しない	<input type="checkbox"/>			
走行時間短縮・走行 経費減少・交通事故 減少以外の便益	考慮しない	<input checked="" type="checkbox"/>			
	考慮する	<input type="checkbox"/>			
その他					

費用の現在価値算定表

箇所名：恩納南バイパス(事業全体)				維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)			
				単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)	
				0.30	6.5	1.93	
年次	年度	割合率	GDP デフレータ	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-20年目	H 2	3.1187	113.3	0.10	0.28		
-19年目	H 3	2.9987	116.0	2.5	6.7		
-18年目	H 4	2.8834	117.6	1.2	2.9		
-17年目	H 5	2.7725	117.9	5.3	13		
-16年目	H 6	2.6658	117.8	4.5	10		
-15年目	H 7	2.5633	117.1	7.9	18		
-14年目	H 8	2.4647	116.6	6.9	15		
-13年目	H 9	2.3699	117.5	10	22		
-12年目	H 10	2.2788	116.9	11	21		
-11年目	H 11	2.1911	115.2	5.5	11		
-10年目	H 12	2.1068	113.8	2.6	4.9		
-9年目	H 13	2.0258	112.4	11	20		
-8年目	H 14	1.9479	110.5	12	21		
-7年目	H 15	1.8730	109.0	18	33		
-6年目	H 16	1.8009	107.9	16	27		
-5年目	H 17	1.7317	106.7	15	24		
-4年目	H 18	1.6651	105.9	26	42		
-3年目	H 19	1.6010	105.0	15	24		
-2年目	H 20	1.5395	104.4	21	32		
-1年目	H 21	1.4802	103.0	13	19		
暫定供用開始年次	H 22	1.4233	101.3	13	19	0.94	1.4
1年目	H 23	1.3686	99.8	13	18	0.94	1.3
2年目	H 24	1.3159	99.0	16	22	0.94	1.3
3年目	H 25	1.2653	99.0	11	14	0.94	1.2
4年目	H 26	1.2167	101.5	16	20	0.94	1.2
5年目	H 27	1.1699	103.0	23	27	0.94	1.1
6年目	H 28	1.1249	102.8	18	20	0.94	1.1
7年目	H 29	1.0816	103.0	13	14	0.94	1.0
暫定供用年次(8年目)	H 30	1.0400	103.0	11	12	1.4	1.4
9年目	R 1	1.0000	103.0	4.0	4.0	1.4	1.4
10年目	R 2	0.9615	103.0	5.6	5.4	1.4	1.3
11年目	R 3	0.9246	103.0	2.7	2.5	1.4	1.3
12年目	R 4	0.8890	103.0	15	14	1.4	1.2
13年目	R 5	0.8548	103.0	7.5	6.4	1.4	1.2
完成供用年次(14年目)	R 6	0.8219	103.0			1.8	1.4
15年目	R 7	0.7903	103.0			1.8	1.4
16年目	R 8	0.7599	103.0			1.8	1.3
17年目	R 9	0.7307	103.0			1.8	1.3
18年目	R 10	0.7026	103.0			1.8	1.2
19年目	R 11	0.6756	103.0			1.8	1.2
20年目	R 12	0.6496	103.0			1.8	1.1
21年目	R 13	0.6246	103.0			1.8	1.1
22年目	R 14	0.6006	103.0			1.8	1.1
23年目	R 15	0.5775	103.0			1.8	1.01
24年目	R 16	0.5553	103.0			1.8	0.97
25年目	R 17	0.5339	103.0			1.8	0.94
26年目	R 18	0.5134	103.0			1.8	0.90
27年目	R 19	0.4936	103.0			1.8	0.87
28年目	R 20	0.4746	103.0			1.8	0.83
29年目	R 21	0.4564	103.0			1.8	0.80
30年目	R 22	0.4388	103.0			1.8	0.77
31年目	R 23	0.4220	103.0			1.8	0.74
32年目	R 24	0.4057	103.0			1.8	0.71
33年目	R 25	0.3901	103.0			1.8	0.68
34年目	R 26	0.3751	103.0			1.8	0.66
35年目	R 27	0.3607	103.0			1.8	0.63
36年目	R 28	0.3468	103.0			1.8	0.61
37年目	R 29	0.3335	103.0			1.8	0.59
38年目	R 30	0.3207	103.0			1.8	0.56
39年目	R 31	0.3083	103.0			1.8	0.54
40年目	R 32	0.2965	103.0			1.8	0.52
41年目	R 33	0.2851	103.0			1.8	0.50
42年目	R 34	0.2741	103.0			1.8	0.48
43年目	R 35	0.2636	103.0			1.8	0.46
44年目	R 36	0.2534	103.0			1.8	0.44
45年目	R 37	0.2437	103.0			1.8	0.43
46年目	R 38	0.2343	103.0			1.8	0.41
47年目	R 39	0.2253	103.0			1.8	0.40
48年目	R 40	0.2166	103.0			1.8	0.38
49年目	R 41	0.2083	103.0	-52	-11	1.8	0.37
合計				320	553	79	46
単純事業費計						79	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

(投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表

				維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)			
				単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)	
				0.22	6.5	1.43	
年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-4年目	R 2	0.9615	103.0	5.6	5.4		
-3年目	R 3	0.9246	103.0	2.7	2.5		
-2年目	R 4	0.8890	103.0	15	14		
-1年目	R 5	0.8548	103.0	7.5	6.4		
完成供用開始年次	R 6	0.8219	103.0			1.3	1.1
1年目	R 7	0.7903	103.0			1.3	1.03
2年目	R 8	0.7599	103.0			1.3	0.99
3年目	R 9	0.7307	103.0			1.3	0.95
4年目	R 10	0.7026	103.0			1.3	0.91
5年目	R 11	0.6756	103.0			1.3	0.88
6年目	R 12	0.6496	103.0			1.3	0.84
7年目	R 13	0.6246	103.0			1.3	0.81
8年目	R 14	0.6006	103.0			1.3	0.78
9年目	R 15	0.5775	103.0			1.3	0.75
10年目	R 16	0.5553	103.0			1.3	0.72
11年目	R 17	0.5339	103.0			1.3	0.69
12年目	R 18	0.5134	103.0			1.3	0.67
13年目	R 19	0.4936	103.0			1.3	0.64
14年目	R 20	0.4746	103.0			1.3	0.62
15年目	R 21	0.4564	103.0			1.3	0.59
16年目	R 22	0.4388	103.0			1.3	0.57
17年目	R 23	0.4220	103.0			1.3	0.55
18年目	R 24	0.4057	103.0			1.3	0.53
19年目	R 25	0.3901	103.0			1.3	0.51
20年目	R 26	0.3751	103.0			1.3	0.49
21年目	R 27	0.3607	103.0			1.3	0.47
22年目	R 28	0.3468	103.0			1.3	0.45
23年目	R 29	0.3335	103.0			1.3	0.43
24年目	R 30	0.3207	103.0			1.3	0.42
25年目	R 31	0.3083	103.0			1.3	0.40
26年目	R 32	0.2965	103.0			1.3	0.39
27年目	R 33	0.2851	103.0			1.3	0.37
28年目	R 34	0.2741	103.0			1.3	0.36
29年目	R 35	0.2636	103.0			1.3	0.34
30年目	R 36	0.2534	103.0			1.3	0.33
31年目	R 37	0.2437	103.0			1.3	0.32
32年目	R 38	0.2343	103.0			1.3	0.30
33年目	R 39	0.2253	103.0			1.3	0.29
34年目	R 40	0.2166	103.0			1.3	0.28
35年目	R 41	0.2083	103.0			1.3	0.27
36年目	R 42	0.2003	103.0			1.3	0.26
37年目	R 43	0.1926	103.0			1.3	0.25
38年目	R 44	0.1852	103.0			1.3	0.24
39年目	R 45	0.1780	103.0			1.3	0.23
40年目	R 46	0.1712	103.0			1.3	0.22
41年目	R 47	0.1646	103.0			1.3	0.21
42年目	R 48	0.1583	103.0			1.3	0.21
43年目	R 49	0.1522	103.0			1.3	0.20
44年目	R 50	0.1463	103.0			1.3	0.19
45年目	R 51	0.1407	103.0			1.3	0.18
46年目	R 52	0.1353	103.0			1.3	0.18
47年目	R 53	0.1301	103.0			1.3	0.17
48年目	R 54	0.1251	103.0			1.3	0.16
49年目	R 55	0.1203	103.0			1.3	0.16
合計				31	28	65	24
単純事業費計				31		65	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

(投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

便益の現在価値算定表

箇所名：恩納南バイパス(渡事業)

Table with 12 main columns: Year (年度), Annual Benefit (年次便益), Benefit Rate (割引率), GDP, Short-term Benefit (走行時間短縮便益), Long-term Benefit (走行経費減少便益), Benefit Reduction (事故減少便益), and Total (合計). Rows include years from R1 to R55 and a final total row.